読んでみたい本

児童文学評論家　藤田のぼる

この稿を書いている3月、日本児童文学者協会賞の選考で、昨年出された作品を集中的に読んでいます。大人の文学ほどではないと思いますが、児童文学の世界でもいくつかの文学賞があります。大体、春と秋に集中していて、春の賞としては、作家団体が主催する児童文学者協会賞と児童文芸家協会賞の他、産経児童出版文化賞、そして岡山市が主催する坪田譲治文学賞（児童文学と青春小説的な作品も対象）などがあります。こうした春に発表される賞は、概ね前年の1月から12月までに出された作品を対象としています。

これに対して秋に発表される賞は、概ね前年の秋からその年の夏頃までの作品という区切りになりますが、講談社系の野間児童文芸賞や小学館児童出版文化賞などがあります。野間児童文芸賞の場合は、野間文芸賞と新人賞も同時に発表され、贈呈式も一緒なので、一般の文学関係者と児童文学関係者が一堂に会することになります。何年か前の贈呈式後のパーティーで、浅田次郎さんがおられ、浅田さんは僕がかつて勤務していた私立小学校のご出身なので、そんな話をすることができました。なにより受賞者にとって晴れがましい場であることはもちろんですが、参加者にとってもいろいろな出会いがある貴重な場でもあるわけです。

◇

さて、いつもだと、まず絵本からなのですが、今回紹介する絵本は総じて対象年齢が高いので、4月でもあり、まずは新1年生向けの本を2冊。

『あしたから1ねんせい』（きむらゆういち・作、有田奈央・絵、新日本出版社）

小学校入学を前にしたゆうくんは、学校の中が迷路になったり、上級生たちが怪獣になったりして出てくる夢を見るほど、1年生の日々が心配です。ところが、ねこの学校に入るという近所のねこも、カラスの学校に入学するというカラスも、入学を前にドキドキのようです。そんなゆうくんも、いよいよ学校に行く日がやってきます。1年生にとっては、ちょっと前までの自分に重ねて、主人公に声援できる1冊になりそうです。（1200円＋税）

『がっこうたんけん しょうがっこうだいずかん』（WILLこども知育研究所編・著、金の星社）

多分1年生は、入学後間もなく「学校たんけん」のようなことをやるのでしょうが、幼稚園や保育園に比べてまるでひとつの社会のような、学校というシステムを飲み込むのは、難しいことでしょう。この本は、特別教室や図書室、保健室などの場所の説明に加えて、1年間の行事、持ち物、時間割、「学校で使うことば」などの項目があって、全体として学校という空間を子どもたちが把握できる仕掛けになっています。1年生の心強い味方になってくれそうです。（1500円＋税）

◇

ここからが絵本です。

『朝の歌』（小泉周二・詩、市居みか・絵、岩崎書店）

これは「詩の絵本～教科書に出てくる詩人たち」というシリーズの中の1冊。この詩人は現行教科書では「水平線」という詩が載っています。詩の説明は難しいのですが、第1連は「おはようまつ毛」から、2連は「おはようタオル」、3連は「おはようひかり」から始まって、このフレーズが4回繰り返され、いずれも「きょうまたぼくは生まれた」と締めくくられます。朝の情景が、自分自身の新たな誕生と重ねられるわけです。これが実に見事な絵本になっていて、とにかく実物を見てほしいと思いました。巻末に監修者の宮川健郎氏による、この詩や詩人についての解説も付されています。（低・中学年以上向き、1800円＋税）

『だるまちゃんと楽しむ 日本の子どものあそび読本』（加古里子・著、福音館書店）

これは『だるまちゃんとてんぐちゃん』の作者による、様々な遊びを紹介した絵図鑑、といった趣の1冊で、「草花や木の実のあそび」「紙をつかうあそび」「手やゆびのあそび」など七つのジャンルにわたって、100以上もの遊び方が紹介されています。一人で遊べる、二人で遊ぶ、みんなで遊ぶなどパターンは多様ですが、どれも簡単で、かつほとんど準備もいらない、「今すぐ遊べる」遊びが満載。そしてこの本自体も、一人でも楽しみたい、みんなでも読みたい、そんな不思議な魅力にあふれています。（低・中学年以上向き、1400円＋税）

『人と出会う場所 世界の市場』（小松義夫写真・文、アリス館）

世界中の「家」をテーマにしている写真家が、各地で出会った市場を撮った写真絵本。「湖の上の市場」「山の広場の動物市場」等々、場所も売られているものも実に様々です。但し、決して珍しい市場を選んで紹介しているということではなく、それぞれの国の人たちの暮しを支えている日常的な場としての市場の様子が、画面からストレートに迫ってきます。ともすればスーパーやコンビニでほとんど買い物が済んでしまいそうな私たちにとっては、そこから立ち上ってくる色や匂いや喧噪に圧倒されそうです。（中学年から、1600円＋税、中学年以上向き）

『宮沢賢治の鳥』（国松俊英・文、舘野鴻・画、岩崎書店）

「やまなし」に登場するカワセミや「よだかの星」など、賢治の詩や童話には多くの鳥が描かれ、著者によると70種以上にもなるといいます。この絵本では、そうした詩や童話の、鳥が登場する部分が引用されると共に、なぜそこで鳥を登場させたのか、なぜその鳥でなければならなかったのかが、語られます。作家であり、鳥の研究家でもあり、長年賢治作品の鳥について考察を深めてきた著者ならではの贅沢な1冊ですが、ページをめくる度に構図や色遣いに工夫を凝らされた絵のすばらしさが、さらに絵本としての説得力を高めています。（高学年以上向き、1700円＋税）

◇

ここからは、中・高学年向き以上の読み物になります。

『ぼくらは鉄道に乗って』（三輪裕子・作、佐藤真紀子・絵、小峰書店）

3学期が始まろうというとき、悠太の住むアパートに母と娘の家族が越して来ます。理子と名乗ったその子が列車の時刻表を手にしていたのを、鉄道ファンである悠太は見逃しませんでしたが、話をする機会はありません。悠太には、町の図書館で知り合った鉄道ファン仲間の隼人がおり、1年上の隼人と二人で鉄道博物館に行ったりします。5年生になった悠太と理子は同じクラスになりますが、図書館で会った理子が見ていたのは、やはり時刻表でした。「鉄子なの？」という隼人の質問に首を振る理子。理子が時刻表を見ていたのは、分かれた弟に会いに、一人で千葉県の大原まで行くためだったのです。理子の願いを叶えるために、隼人と悠太の〈プロジェクト〉が発進します。等身大の冒険という表現は変かも知れませんが、子ども読者からとても身近で切実に感じられそうな作品世界が、スピーディーに展開されます。（中・高学年向き、1400円＋税）

『ふたりユースケ』（三田村信行・作、大沢幸子・絵、理論社）

5年生の小川勇介は、銀行員の父親の転勤で、小さな田舎町に越して来ます。電車を何度か乗り越え、さらにバスで1時間という不便さでしたが、バス停に降り立った勇介は、町の人たちに取り囲まれます。みな口々に「ユースケが帰ってきた」と叫ぶのです。次第にわかってきたのは、町の有力者の子どもで、神童と呼ばれていた少年がおり、その名前は大川雄介。東京の難関中学校に入学し、この斜陽の町の期待を一身に背負っていた彼は、2年前の夏休みに川で死んだというのです。同じ名前で顔も瓜二つ、おまけに勇介がやってきたのがお盆の8月13日とあって、町は騒然となります。やがて雄介を失った大川家も含めて、町中が勇介を期待の星と遇し始めます。

特異な設定に惹きつけられながら、自分と向き合うことの大切さが心にしみてきます。（中・高学年以上向き、1400円＋税）

『こそあどの森の物語 水の森の秘密』（岡田淳作・絵、理論社）

「こそあどの森の物語」シリーズは、第1巻『ふしぎな木の実の料理法』の刊行から25年、今回の第12巻でついに完結です。トゲトゲの大きなウニを載せたような形の、ウニマルと呼ばれる船に住んでいるスキッパー少年、湯わかしの注ぎ口を上にして半分土に埋めたような家に住むポットさんとトマトさんの夫婦、その時の気分で名前を変える女の子のふたごなど、独特のキャラクターと舞台設定で、このシリーズは日本版ムーミンと呼ばれたりもしました。

今回の完結編は、今まで誰も見向きもしなかったプニョプニョタケというキノコの料理法がわかり、その思いがけないおいしさに、みな夢中になって採り始めたところから、物語が始まります。一方、ポットさんや大工のギーコさんは、森の微妙な環境変化にも気づいていました。やがて森が湿地のようになり、あっという間に水位が上がっていきます。まさかこそあどの森の消滅でシリーズが終わるのか！ と、ちょっと心配になりましたが、その後には見事なタネ明かしが待っていました。それぞれの巻はまったく独立した話なので、この巻から読んでも問題ありません。（高学年以上向き、1700円＋税）

『円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦』（鳴海風・著、伊野孝行・絵、くもん出版）

関孝和という名はよく知られていますが、その業績の中味となると、例えば伊能忠敬のようなわかりやすさはありません。本書では、円周率という身近な入口を設定したことで、時代を越えた発想のすごさ、すばらしさが確かに伝わってきます。孝和が数学を学び始めたころは316（3．16）が一般的だったらしいのですが、彼はより正確にというだけでなく、どのように考えれば正しい値に近づけるのかという理論を必死で模索し、その結果は師匠を驚かせるものでした。

孝和の生い立ちなどは不明な点が多いらしく、本書は小説とノンフィクションを織り交ぜた構成となっていますが、孝和自身はもちろん、彼の才能を認め、支えた周囲の人々の人間模様に引きこまれます。（高学年・中学生以上向き、1500円＋税）

ベルマーク寄贈者 敬称略

一般寄贈マーク

12月21日から1月20日までに届いた分

▼北海道 日本生命保険相互会社札幌支社 木村由美 佐々木章乃 有料老人ホームフルールハピネスはこだて▼岩手県 相馬猛▼宮城県 鈴木まゆみ 丹治美佳▼秋田県 戸嶋祐子 匿名希望▼山形県 大矢由美子▼茨城県 石塚順子 塩幡保治 シティーナ神立 山田章子 鈴木詠子▼群馬県 本間千恵子▼埼玉県 大渡歯科 赤石恵里 有限会社朝日メディアサービスASA小手指・狭山ヶ丘 島田澄恵 杉本富美子 山崎朋絵 井上花子 荘司美千代▼東京都 岡部嗣治 神原圭子 クデイラアンドアソシエイト株式会社 斉藤啓子 東京女子大学同窓会みずき会一同 戸松佑介 尾藤淳 藤ヶ谷英子 井上 気ままなキッチン 資生堂アメニティグッズ株式会社 田中舘秀教 野沢けさ子 日暮町子 三井住友信託銀行吉祥寺中央支店 山口比乃 榊原陽子 柴田玲子 高橋 ASA富士見台 青木敦子 上田優子 遠藤節子 齊藤千恵子 首都高速道路株式会社 三橋良江 明治安田生命所沢支社MOT委員会 吉野千鶴子 匿名希望▼神奈川県 黒田洋子 駒形洋子 佐藤昭子 佐藤政恵 松田めぐみ 横内文子 株式会社シーメンズパワー 三井住友信託銀行相模大野支店 山崎和子 小嶋一夫▼新潟県 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 本田多加美▼富山県 渋谷彰一▼石川県 山下由久栄▼長野県 丸田純子▼岐阜県 大橋佳代子 古川中学校 井貝未奈▼静岡県 平山友美 曽我小学童保育所 ヤマハ発動機株式会社・生産本部生産管理部環境委員会事務局 畠中将也 ヤマハ発動機マネジメントサービス株式会社▼愛知県 福岡奈美 福田直子 松本由美子 山田真太郎 高柳元子 土屋友子 小野香奈枝 新海千穂 丁里佳 日本メナード化粧品ユニオン 野田▼三重県 加藤卓 谷合千早 アイスター商事代理店・川口節子 坂口 山森房子▼京都府 有限会社時代工房・株式会社スタジオニクロム 山田かおり▼大阪府 川村早苗 加藤紀子 積水ハウス株式会社 大西祐子 アイスター商事代理店・田中康子▼兵庫県 阪神医療生活協同組合 アイスター商事代理店・藤井由美子▼奈良県 下山大輔▼和歌山県 太田啓子 橋爪智▼島根県 JAしまね出雲地区本部ふれあい福祉課▼岡山県 花王カスタマーマーケティング株式会社▼広島県 池田祥代 笹田俊宏 匿名希望▼山口県 海上自衛隊岩国航空基地上層会▼福岡県 株式会社日専連ベネフル 副島亜樹 橋本恭子 鴨生田小学校 日立化成オートモーティブプロダクツ株式会社・経営支援センタOH！しゃべり隊一同▼熊本県 岩本真生 松田澄枝 一市民 窪田泰▼大分県 石堂泰史 上坂美智代▼和田勝代▼無記名＝38件●一般寄付3000円 湖崎清治（香川県宇多津町）

1月21日から2月20日までに届いた分

▼北海道 鈴木マユミ 水道機工株式会社・札幌営業所 向田▼岩手県 内海誠▼宮城県 丹治美佳 平瀬泰子▼茨城県 金谷トモ子 小川礼子 宮本紗代▼埼玉県 尾田知晴 阿部 折原理恵子 品田則昭 本間弘子 明治安田生命保険相互会社・熊谷支社▼千葉県 越智康子 土橋真奈美 吉田伊知朗 二宮圭二 宇野慶恵 キムラフミコ 工藤知彦 高井宏子 三好勝子 匿名希望▼東京都 第一生命保険株式会社・団体年金サービス部 尾藤淳 八幡小学校 藍屋・世田谷上野毛店 久保田典子 篠田 鳥居薬品株式会社 西村麻佐子 山田久代 大石夢美 株式会社東芝・営業統括部一同 鶴山英己 日本航空乗員組合 山田博子 吉田志保（宗）一貫道天慈壇 山口 JYJへの愛をささやく 市川加代子 株式会社かんぽ生命保険業務部内田由美子 株式会社ライヴス・竹内 佐藤和恵 白木 第一生命カードサービス株式会社 藤岡郁子 宮地節子 安永誠子 山田▼神奈川県 秋間佐治子 石黒琢一郎 臼井英子 清水有加 東芝プラントシステム株式会社・経理部 IFRS・J-SOX対応推進部 戸部春美 青木正子 岩崎照子 森里久美子▼新潟県 宮川昇一 NPO法人ひまわりクラブ 田辺美香▼富山県 株式会社池田模範堂▼石川県 太田幸▼福井県 伊勢章子▼岐阜県 伊藤愛紗 岐阜市立岩野田北小学校 井貝未奈 社会福祉法人関市社会福祉協議会▼静岡県 遠藤裕美子 芝田工業株式会社 小池雅子▼愛知県 杉本 安形秀次税理士事務所 社会福祉法人西尾市社会福祉協議会 新海のぞみ 田中なおみ ペットサロンbb 正木喜代子 三井住友海上火災保険株式会社・中部総務部総務経理チーム▼三重県 アイスター商事代理店・川口節子 前川晴紀子▼滋賀県 社会福祉法人彦根市社会福祉協議会 近藤仁美▼京都府 照喜納弘美 滝川欣也▼大阪府 青木なおみ 安永恒子 上枝美弥子 磯野安代 岡本忠子 株式会社ビーバーハウス 堺市立庭代台中学校3年生生活委員会 中辻安紀子 松本由美子▼兵庫県 川元直美 原田菜穂子 福田登美枝 松尾靖子 中原潤子 三井住友信託銀行川西支店・塚本▼奈良県 一色均美▼和歌山県 須佐見陽子 北村亜矢子 小林吉一▼岡山県 天満屋ストア労働組合 鳥越多美子 前原裕美 操南小学校6年生 大森啓子▼広島県 栗栖正史 齊藤千佳子▼山口県 寺田美恵子▼香川県 守實瑞紀▼福岡県 佐野憲忠 キリンビバレッジ株式会社九州地区本部営業企画部・川崎裕子 園田麻衣 山崎幸子▼佐賀県 神埼市立神埼小学校 江頭毅明 三原ひろみ▼長崎県 本田幸子▼大分県 石堂泰史▼鹿児島県 辻絵梨華 藤中小百合▼松井恵 金澤 武蔵野ばあば 森脇宏子 富井啓子▼無記名＝28件

2月21日から3月20日までに届いた分

▼北海道 網走桂学園 澤本美恵子 高坂恵 朝日新聞北海道支社 SJNK札幌大通ビルCSR隊一同▼岩手県 明治安田生命労働組合盛岡支部▼宮城県 中西裕美子 古谷靖史▼秋田県 貝森明美 伊藤ひろみ▼山形県 柳川友子 滝口隆▼福島県 佐藤朗▼茨城県 伊藤奈津子 江原満明 水戸市立大場小学校▼群馬県 JR共済連群馬 大嶋貴美子 小林周子▼埼玉県 （医）大渡歯科 生活支援センターみんと 大畑直美 津田 坂戸市立千代田小学校 笹本理恵▼千葉県 片岡雅恵 平山靖子 長谷光世 鈴木ます子 小中台南小学校 田端淳 河内一純 京葉ガス㈱広報部・小さな親切事務局 松本佐和子▼東京都 金田尚子 北山恵子 松永裕子 松丸弘子 阿部 神門しのぶ 齊藤則子 菅谷俊子 住友不動産建物サービス㈱ 染谷範江 多摩南部朝日会 鶴山英己 手織教室はたおと 東京海上日動システムズ㈱ 堀内比佐子 目白教会 丸本 立正佼成会練馬教会婦人部 猪谷美代子 川辺英文 （社福）八丈町社会福祉協議会 頌栄女子学院 センチュリーメディカル㈱ 千代田区立麹町小学校 三菱電機システムサービス㈱ ㈱かんぽ生命広報部CSR担当 東京税理士会世田谷支部 三菱UFJニコス㈱マーケティング企画部広告宣伝G▼神奈川県 樺島敦子 福田左弓 前田仁子 山本ふみ子 小副川淑子 石黒琢一郎 鈴木昌子 佐藤信隆 成瀬朋子 渡辺洋子 榊原禮子 髙橋佳子 富士ソフト企画㈱▼新潟県 小林麻央▼石川県 PFVクリエイティブサービス㈱経理サービス部 清水千加代▼長野県 清水次子 平林法子▼静岡県 橋本美代子 南富士病院デイケア一同▼愛知県 朝日新聞名古屋本社統括センター（お客様）岡谷コンサルタント㈱ お茶処菜美 森一生 大野章一 日進市立日進東中学校 香月大翔 角谷理恵 トヨタ部品愛知共販㈱総務室 三菱化学㈱中部支社 吉村千鶴▼三重県 アイスター商事代理店・川口節子 濱口愛▼滋賀県 相馬貴美子 塩谷木工㈱ 向井明子▼京都府 小野典子▼大阪府 西山淑子 溝口しげみ 稲垣美智代 髙崎裕子 川崎陽子 大西祐子 京セラドキュメントソリューションズ㈱ 蔵田豊子 佐伯和世 ジブラルタ生命保険㈱なんば支社 猫石直子 宮武有佳子▼兵庫県 森脇慎也 今西正樹▼奈良県 斉藤広樹▼和歌山県 吉村由紀子▼岡山県 児島マリンプール▼広島県 佐々木 松尾真希▼愛媛県 四国中央市新宮公民館▼福岡県 西南学院小学校 西村順子 北九州市立東朽網小学校なかよし委員会▼長崎県 長崎東中学校▼大分県 院内中部小学校 杵築市立上小学校▼沖縄県 外間房恵 Wコンフォートタワーズ社会奉仕クラブ▼無記名＝19件

大震災寄贈マーク

12月21日から1月20日までに届いた分

▼北海道 枝幸町立歌登中学校 美唄消費者協会▼岩手県 anna．f 西里由紀▼秋田県 大正琴あきた▼茨城県 木村あゆみ 鈴木詠子▼埼玉県 どんぐり文庫 所沢市立北野小学校 山本綾子 宮坂眞由美▼千葉県 石黒純代 岡崎泉 沼野千鶴 安藤明美 関田元子 江頭由紀美 関かよ子 川口玲子▼東京都 株式会社ティップネス 田中美紀 多摩南部朝日会 水上奈緒美 三井住友海上火災保険株式会社・金融営業推進部一同 住友不動産建物サービス株式会社マンション会計センター 田口薫 日本基督教団小金井緑町教会 川上道代 西有紀子 文京区立第六中学校生徒会 山崎郁子 JYJへの愛をささやく 河原日和▼神奈川県 ASA二俣川 柿沼恵子 駒形洋子 新村美津子 渡会恵 北見英之 藤原奈美江 山下陽子 岩崎直子 加藤容子 嶋田真央 東芝小向事業所情報・通信技術部一同▼福井県 県立武生商業高等学校JRC部▼長野県 伊東伸子▼岐阜県 井貝未奈 奥原たかし 松波昌代 森澤晴子▼静岡県 佐野友美▼愛知県 平井閲行 村瀬弥生 株式会社ホットスタッフ▼三重県 川村佳子 阪口敏子▼京都府 喜多真弓 中尾幸重 匿名希望▼大阪府 村田圭子 木村仁美 東大阪市協働のまちづくり部▼兵庫県 石原裕美▼奈良県 宮崎新嗣▼和歌山県 辻友香子▼広島県 藤田厚子▼山口県 藤井公江 山中靖正▼香川県 社会福祉法人琴平町社会福祉協議会 小林地恵▼福岡県 藤まさみ ASA糸田▼佐賀県 神埼市立千代田中部小学校五年生▼大分県 県立三重総合高等学校生徒会 朝日新聞大分販売株式会社▼鹿児島県 田島涼子 日高京子▼無記名＝28件●現金7416円 川崎市立有馬中学校生徒会（川崎市宮前区）

1月21日から2月20日までに届いた分

▼北海道 佐藤隆史 frdtakk 美唄消費者協会▼青森県 弘前大学教育学部付属中学校▼岩手県 県立盛岡となん支援学校中学部生活委員会▼秋田県 札幌学院大学鉄道研究会OB会▼茨城県 江原明美 佐竹かおる▼栃木県 西村薫子 鈴木めぐみ▼群馬県 長坂利位子▼埼玉県 ASA入間市中央 菊池将太 航空自衛隊熊谷基地准曹会 丸林あさ子 武蔵野小学校 松山女子高校ソーシャルサポート部 大久保祥子 林みさと 宮澤和美 吉田泰史▼千葉県 関田元子 中田和恵 小澤美紗子 永谷たか子 匿名希望▼東京都 木原佳世子 キリンビバレッジ株式会社 小林紀美子 多摩南部朝日会 平山孝子 船野統民 三浦洋美 久保田典子 住友不動産建物サービス株式会社マンション会計センター 竹下愛美 西村麻佐子 日本基督教団小金井緑町教会 宮田久美子 一般社団法人紫芳会 浅草中屋・中川株式会社代表取締役社長中川雅雄 株式会社ファーマインド西東京事務所 杉並区立馬橋小学校 竹の塚中学校成人教育委員会 鶴山英己 日本生命保険相互会社・東京職域法人開発室熊木彩映子▼神奈川県 ASA二俣川 横浜市立領家中学校 吉田伸太郎 尺英也 田中綾子 カーブス井細田＆栄町 加藤美和 薬王寺内青壮年会 伊東孝子 岡崎弘子 牧野正和・ゆかり▼山梨県 南アルプス市立白根百田小学校▼長野県 百瀬弘美▼岐阜県 岐阜県JAビジネスサポート株式会社 森あずさ▼静岡県 岡田典子・奈己▼愛知県 若尾里加 大阪学院大学校友会東海支部 長江政則 安形秀次税理士事務所 浅岡柾希 愛西市立開治小学校▼三重県 木村千恵▼滋賀県 唐崎幼稚園▼京都府 堀口美和子▼大阪府 青木惠子 北辻稲子 熊本県大阪事務所次長・渕脇拡之 古井香澄 アズビル株式会社関西支社・松本（アドバンスオートメーションカンパニー） 岡島よりみ 中村幸子 古谷寿美▼兵庫県 谷口直子 三宅花奈 西宮市立安井小学校▼奈良県 サークルベルちゃんボランティア▼島根県 吉岡由佳▼山口県 大籾恒子▼徳島県 酒井英樹▼福岡県 久留米市立京町小学校 八津田小読みきかせグループくどっこいしょ 倉掛彩子 重松さおり 和田久子▼佐賀県 三根和美▼宮崎県 石川潤子▼鹿児島県 竹藤紋子▼菅原玲▼無記名＝28件

2月21日から3月20日までに届いた分

▼北海道 トヨタ自動車北海道㈱ 美唄消費者協会 厚岸町立太田小学校 草薙えい子▼青森県 竹内康子▼岩手県 むらさきのクリニック▼宮城県 H▼茨城県 斉藤美奈子▼群馬県 高崎トーヨー住器㈱ 柄沢裕子▼埼玉県 恩田遥菜 ふじみ野市立さぎの森小学校 丸山由希未 澁谷孝子 朝霞市東朝霞公民館 所淑子 藤沼洋子 渡辺裕美▼千葉県 八代和子 MS＆AD事務サービス㈱ 秋山美千代 ホテルフランクス 鎌滝美江 関田元子▼東京都 鏑木満寿美 伊藤美智子 新以都子 住恵理子 国立市立国立第二中学校PTAボランティアサークル 古川由美 JA共済連 井上恵里子 石神井幼稚園 日本基督教団小金井緑町教会 蛭田朋子 むさしの学園小学校 ㈱LSIメディエンス JYJへの愛をささやく 千代田区立麹町中学校 鶴山英己 中村月美・日香理▼神奈川県 坂巻順子 湘南新聞販売㈱ 伊藤 柿沼恵子 茅ヶ崎市国際交流協会 高木悦子（職場有志一同）岡部▼石川県 金沢市立長田町小学校育友会▼山梨県 南みさと▼長野県 五味直哉▼岐阜県 大垣市立綾里小学校PTA 井貝未奈 奥原たかし 立正佼成会中津川教会多治見支部 杉本えつこ▼静岡県 石橋直也▼愛知県 安藤美津子 東邦ガス㈱ 安城市立安城西中学校 NTT西日本東海事業本部 鈴木真由美 安藤佳未 伊藤三千子 入江延代 東芝ライフテック㈱▼大阪府 川口律子 大阪市建設局はなまる活動 ㈱ドコモCS関西 東大阪市役所協働のまちづくり部 久保田恵子 松本佐世子 奥田立子▼兵庫県 近畿大学付属豊岡中学校 河野 鎌田将輝 絵かきやJUN FCTERRAサポーターの会・一語一笑▼奈良県 宮崎新嗣▼岡山県 NPO法人玉島たんぽぽ 田坂裕子▼広島県 栗栖正史▼山口県 有井尚輝▼福岡県 鞘野正人▼長崎県 大村高等学校▼鹿児島県 石原昭美 医療法人たけ内科 梅津かおり 大口酒造 ガールスカウト鹿児島県連盟 甲南高等学校生徒会 かごしま産業支援センター 鹿児島市ふれあい館 鹿児島信用金庫（国分支店・田上支店・武町支店） かごしまベルマーク運動推進の会 カフェギャラリーあがってん 慶田美保子 県立吉野公園管理事務所 こうえん薬局 坂田板金 さつま町立山崎小学校 仁田るみ子 田中由利子 中野まゆみ 西本願寺鹿児島別院 日本生命鹿児島支社 ホテル霧島キャッスル総務課 松崎一矢 横井慎一郎▼安部聡子 飛岡喜美子 GoldWing▼無記名＝25件

友愛援助申し込み

1月1日から1月31日までに申し込んだ分

▽北海道 市立中央小（札幌市中央区）▽青森県 北園小（十和田市）▽岩手県 花巻清風支援学校北上分教室（北上市）▽埼玉県 栄和小（さいたま市浦和区）栄中（草加市）潮止小（八潮市）常磐北小（さいたま市桜区）▽千葉県 千葉大学教育学部附属小（千葉市稲毛区）高野山小（我孫子市）▽東京都 立会小（品川区）あおい第一幼稚園（府中市）富士見丘小（昭島市）▽神奈川県 汐見台中（横浜市磯子区）南山田小（横浜市都筑区）▽富山県 若葉幼稚園（富山市）定塚小（高岡市）▽静岡県 初島小中（熱海市）市立北幼稚園（三島市）▽愛知県 鬼崎南保育園（常滑市）南陵中（常滑市）幸田中（幸田町）▽滋賀県 南郷小（大津市）北野幼稚園（野洲市）今津幼稚園（高島市）▽大阪府 楠葉西中（枚方市）▽奈良県 富雄南小（奈良市）▽広島県 大塚小（広島市安佐南区）▽長崎県 長崎商業高（長崎市）

2月1日から2月28日までに申し込んだ分

▽岩手県 江刺第一中（奥州市）▽宮城県 白石市第一幼稚園（白石市）▽山形県 寒河江小（寒河江市）▽群馬県 境小（伊勢崎市）市立東中（みどり市）▽東京都 田園調布双葉中・高（世田谷区）杉並第二小（杉並区）豊玉小（練馬区）関口学園明照第二幼稚園（葛飾区）▽神奈川県 船越小（横須賀市）▽新潟県 堀之内中（魚沼市）▽長野県 中野小（中野市）岩村田小（佐久市）▽岐阜県 古井小（美濃加茂市）▽静岡県 中郡小（浜松市東区）浮島小（沼津市）▽愛知県 桜町小（安城市）緑丘小（みよし市）▽京都府 御所南小（京都市中京区）▽兵庫県 関西学院幼稚園（西宮市）榎列小（南あわじ市）▽奈良県 青和小（奈良市）▽岡山県 倉敷市立西中（倉敷市）▽大分県 判田小（大分市）

3月1日から3月31日までに申し込んだ分

▽青森県 八戸学院短期大学看護学科（八戸市）小川原小（東北町）▽岩手県 はまゆり学園（宮古市）▽宮城県 鳴瀬桜華小（東松島市）▽埼玉県 南小（所沢市）▽千葉県 長浦小（袖ヶ浦市）▽東京都 隅田小（墨田区）多田小（中野区）上鷺宮小（中野区）井草中（杉並区）旭が丘小（日野市）第四小（東大和市）▽神奈川県 俣野小（横浜市戸塚区）永野小（横浜市港南区）桂台小（横浜市栄区）馬堀小（横須賀市）第二小（鎌倉市）▽新潟県 三条小（三条市）▽富山県 富山市立中央小（富山市）富山大学人間発達科学部附属中（富山市）▽愛知県 高蔵寺高（春日井市）▽三重県 橋南中（津市）厚生小（伊勢市）上野高（伊賀市）▽滋賀県 晴嵐小（大津市）長浜小（長浜市）草津小（草津市）▽大阪府 大阪教育大学附属平野小（大阪市平野区）北山田小（吹田市）▽兵庫県 舞子小（神戸市垂水区）▽岡山県 大元幼稚園（岡山市北区）▽福岡県 霧丘小（北九州市小倉北区）▽長崎県 上山小（諫早市）▽大分県 挾間小（由布市）

熊本緊急友愛援助

1月1日から申し込んだ分

▽北海道 やまびこネットワークこだま教室（士別市）▽岩手県 花巻清風支援学校北上分教室（北上市）▽山形県 寒河江小（寒河江市）▽群馬県 赤城南中（渋川市）▽埼玉県 朝霞第五小（朝霞市）南小（所沢市）▽千葉県 千葉大学教育学部附属小（千葉市稲毛区）興津中（勝浦市）酒井根東小（柏市）▽東京都 余丁町幼稚園（新宿区）牛込仲之幼稚園（新宿区）立会小（品川区）貝取小（多摩市）▽神奈川県 緑小（横浜市緑区）諏訪小（横須賀市）船越小（横須賀市）山元小（横浜市中区）▽富山県 堀川小（富山市）▽長野県 源池小（松本市）吉田小（塩尻市）寿小（松本市）岩村田小（佐久市）▽岐阜県 岐阜北高（岐阜市）▽静岡県 初島小中（熱海市）浮島小（沼津市）▽愛知県 名古屋特別支援学校（名古屋市西区）▽三重県 鼓ヶ浦小（鈴鹿市）▽滋賀県 北野小（野洲市）▽京都府 中筋小（綾部市）▽広島県 比治山小（広島市南区）▽山口県 明新小（周防大島町）▽徳島県 吉井小（旧・大井小）（阿南市）▽福岡県 守恒小（北九州市小倉南区）春日南小（春日市）▽佐賀県 弥生が丘小（鳥栖市）▽大分県 直入中（竹田市）

ご協力ありがとうございました

ベルマーク教育助成財団がベルマーク運動参加校・団体に緊急の「友愛援助」を呼びかけたところ、約120団体から計約340万円のご支援をいただきました。ありがとうございました。この緊急の友愛援助は11月31日で締め切りました。財団は熊本県の被災校65校に各30万円、大分県内の25校に各20万円相当の教育備品・教材を各校の要望に基づいて寄贈しました。「緊急友愛援助」はその資金に活用しました。

「緑のバトン」先生らが継続

防災・教育にも力

津波で大きな被害を受けた宮城県山元町で、楽天イーグルスのコーチらも見守る中であった2015年6月の植樹会

校庭などで東日本大震災の被災地産の苗木を育て、1～3年後に被災地に植樹して緑再生を支援する「緑のバトン運動」。震災を忘れず、被災地や被災者を思う心を育もうと、朝日新聞社、国土緑化推進機構、森林文化協会が実施してきました。2016年度までの5年間に全国438校が参加し、福島、宮城、岩手、青森の4県27カ所に7600本の苗木を植えました。事業は終わりましたが、苗木育成校の先生たちが「緑のバトンの会」を作り、運動を続けることになりました。

ベルマーク預金を使うこともできます。10本1セット、税抜きで1万円です。被災地に送る梱包料と輸送料が含まれます。いったん学校で費用を立て替えていただきますが、すぐに学校に支払われます。募集締め切りは5月末と10月末です。

「緑のバトンの会」代表の東京都江戸川区立東小松川小学校の田中孝宏校長は「苗木の育成にかかわることによって、子どもに防災の大切さを伝え続けることができる」と話します。防災教育にも力を入れています。東京大学生産技術研究所目黒研究室が考案した「防災巻」を使って、災害時に自分の命を守るためにどう行動すべきかを、さまざまな想定で考える授業も実践しています。場所によっては出張授業ができます。

詳しくは「緑のバトンの会」のホームページ（http://nie.asahi.com/baton-of-green2.html）で。問い合わせは朝日新聞社CSR推進部（電話03・5540・7630、メール green@asahi.com、担当・安田）まで。

「熊本地震写真展」主催者から義援金

伊藤園は売り上げの一部

昨年8月に東京・銀座、11月に同・新宿で開かれた「熊本地震報道写真展～いま私たちができること」の会場で募った義援金が、それぞれの主催者からベルマーク財団に寄せられました。銀座会場の写真弘社から1655円、新宿会場（ハイジア）は朝日新聞社から4万6847円、共催の伊藤園からも会場の飲料売り上げの一部1万8025円で、合計6万6527円です。熊本地震で被災した学校の支援に活用します。